

設計・計画部門



みず 谷 友 也

生年月日 1983年11月滋賀県生まれ
最終学歴 神戸大学大学院工学研究科
建築学専攻前期課程修了
業務経歴 2009年㈱昭和設計入社
現在、同社東京事務所建築設計部主査

●担当した主なプロジェクト

2009年 創価学会八尾文化会館
2010年 神戸市立友生支援学校
2011年 東大阪生協病院
2012年 登美ヶ丘リハビリテーション病院
2013年 気仙沼災害公営住宅
2014年 春日部市立病院
2014年 ル・ソラリオン綾瀬特別養護老人ホーム
2015年 UHA味覚糖赤坂ビル
2016年 藤沢公民館・労働会館
2016年 墨田区総合運動場

■青年技術者のことば

一心を育む建築—

人間にとっての幸せとは何か。建築も人の幸せのためにあるべきだ。

僕が生きていく上で指針としている言葉がある。「蔵の財より身の財すぐれたり身の財より心の財第一なり」この言葉は人生の目的を的確に捉えている言葉だ。人のことを思いやれる心、どんな困難も乗り越えられる心を持つことができれば、それが本当の幸福である。これを仏教では「絶対的幸福」という。

幸せが「心の財」で決まるならば、心を育む建築をつくりたい。人間の生命の事象は、空間に表れるものと心の内面に表れるものの相互関係によって成り立っており、空間が与える心的影響は大きい。人や自然、場所といったさまざまな関係性を、心の豊かさに結びつけるように、建築を介して構築してあげることが心掛けながら、日々設計に取り組んでいる。そのためには自分自身も「心の財」を持つことが大切だ。誠実さや思いやりの心、困難を乗り越える心を兼ね備えた設計士として、今後も人々に幸せを運ぶ建築を創っていききたい。

■すいせん者

松田善弘

(株)昭和設計 専務取締役

登美ヶ丘リハビリテーション病院



居心地の良い居場所のある建築

病院としての機能性に加え、居心地がよいと感じられる空間でリハビリができる病院を提案する。

- ①人⇄人の関係性（自他ともに認めあえる関係性の構築）
この病院では、吹き抜け、中庭を介して、平面的にも断面的にも他の人のリハビリをする姿をみることができ、他の人がリハビリをがんばっている姿をみて自分も頑張ろうという気持ちになる。
- ②人⇄場所の関係性（記憶にある場所、地域との関係性の構築）
病院の敷地は、生駒山系等山並に囲われた地域特性を持っており、この囲われた感覚が中庭のシェルターに囲われた感覚とフラクタルに繋ぎ止め、共同幻想として地域性を感じ、心地よさを感じる。
- ③人⇄自然の関係性（自然との関係性の構築）
中庭形式を用いることで、緑側空間のようなかたちで雑多なものを遮断し、安心感を持ちながら自然を感じることができる。
- 空間
以上より、中庭や吹抜を介して平面的にも断面的にも、空や緑といった自然、他の人のリハビリに取り組んでいる姿などが見え隠れし、居場所を感じながら日々のリハビリ生活を送ることができる。

①人⇄人の関係性



②人⇄場所の関係性



③人⇄自然の関係性

